

1 本校の学校評価のねらい

本校では、建学の精神のもと、何よりもすべての子どもたちが心から「学校が楽しい」と言える学校づくりを目指しております。したがって、あくまでも子どもの視点から「学校が楽しい」と言える状態になっているのかどうかを評価し、その達成状況をもとに、より子どもたちの学校生活の満足度が高まるように改善をすすめていくことを、学校評価のねらいとして設定いたしました。あわせて「家庭が楽しい」と言える状況になっているのかどうかについても評価し、学校と家庭が一層連携協力をしながら、本校の子どもたちを取り巻く環境がより良いものとなっていくことを目指すことにいたしました。

2 学校評価の方法

今年度実施いたしました本校の学校評価の方法を説明いたします。

- ① 今年度の「学校教育目標」「目指す子ども像」「重点とする取組」とともに学校評価のねらいや実施方法について、学校だよりにて保護者に発表しました。(7/11)
- ② 子どもたちを対象とした「学校生活や家庭生活の満足度アンケート」を実施しました。このアンケートは、「目指す子ども像」に対応する形で、「友達関係を中心とした満足度」「学習（授業・行事・教師との関係）を中心とした満足度」「カトリックの宗教的価値観の浸透度」の三つの領域で質問を準備しました。これをとおして、「友達をたいせつにする子どもに育っているか」「進んで学習する子どもに育っているか」「まわりの人のために自分の力を喜んで発揮する子どもに育っているか」を評価したいと考えました。またこれに加え「家庭生活を中心とした満足度」を領域とする質問を準備しました。さらに、「自分のことが好きだ」という自尊感情を問う設問と、「学校が好きだ」という帰属意識を問う設問も準備して、合計44問の設問を低学年用、中学年用、高学年用と3種類準備して実施いたしました。(7/14)
- ③ 夏季研修会にて、子どもたちへのアンケートの集計結果をもとに課題を明らかにするとともに、それを改善するための方策を話し合いました。(8/28)
- ④ 子どもたちを対象とした「学校生活や家庭生活の満足度アンケート」の集計結果を配付するとともに、保護者の意見を聴取するため「保護者による学校評価アンケート」実施への協力を依頼しました。(9/19)
- ⑤ 各学年の後期における改善策とともに、「保護者による学校評価アンケート」の全校集計の結果および主な記述意見に対する学校の見解を、保護者に配付しました。(11/25)
- ⑥ 後期の改善策の達成度を確認するために、第2回目の子どもたちを対象とした「学校生活や家庭生活の満足度アンケート」を実施しました。質問項目は前回と同じもので実施しました。(2/2)
- ⑦ 第2回目の子どもたちを対象とした「学校生活や家庭生活の満足度アンケート」の集計結果と、あわせて学年ごとに結果をふりかえってのまとめを配付いたしました。(3/5)

- ⑧ 同日、保護者会長、小学校評議員、学級委員の方々に集まっていただき、今年度の本校の学校評価ならびにそれをもとにした改善策の取組に対しまして、「学校関係者評価」を行っていただきました。(3/5)
- ⑨ 学校だよりにて、「学校関係者評価」でいただいた主な意見を紹介するとともに、今年度の学校評価をとおして明らかになった本校の課題について明らかにし、その解決に向けて今後一層努力することを表明いたしました。(3/16)

3 実施の状況

① 児童対象第1回「学校生活および家庭生活の満足度アンケート」

全校の集計を見ますと以下のような傾向がみられました。

【友達関係を中心とした満足度】

- ・ 「仲の良い友達がいる」という設問には、「よくあてはまる」「すこしあてはまる」を合わせると各学年とも100%近い達成度であり、概ね良好な友達関係が築けているといえます。
- ・ 「友達のことで困ったとき、先生にお話できる」という設問と、「友達がケンカやしてはいけないことをしていたときに注意できる」という設問では、高学年になるほどできると答えた子どもが少なくなる傾向でした。困ったときに先生に話しにくい状況があることと、高学年になるにつれて規範意識が次第に薄れていく傾向が、課題として明らかになりました。

【学習を中心とした満足度】

- ・ どの教科も「よくあてはまる」「すこしあてはまる」を合わせますと70%は超えていますが、高学年になるほど、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と答える子どもの割合が上昇しているのが気になります。特に英語の授業での満足度を高めることは大きな課題です。
- ・ 授業の進め方については、高学年になるほど、自分の考えを発表する機会が少ないと感じていることがわかりました。
- ・ 「授業でわからないことについて先生に質問できる」という設問は、すべての学年で「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と答えた子どもの割合が19%もあり、全校的な課題であると感じます。

【カトリックの宗教的価値観の浸透度】

- ・ 「神様がいつもともにいてくださると感じている」という設問には、低学年では「よくあてはまる」「すこしあてはまる」と答えた子どもが90%を超え、6年でも70%を超えたことは、とても嬉しい結果でした。
- ・ 担任による宗教の授業について「わかりやすく楽しい」という設問に「よくあてはまる」「少しあてはまる」を合わせると、低学年では90%以上、6年でも70%あり、少しずつ定着し満足度も上がってきていることを感じます。
- ・ ただ「祈りの集いやミサに参加することが自分のためになっている」という設問に対して「よくあてはまる」「少しあてはまる」が4年までは84%以上あったのに、5年6年では52%まで下がることは、その原因も含めて検討が必要です。高学年において低学年で培ってきた宗教心をどのように発展させるかが、今後の課題といえます。それでも「聖母で宗教を学んで良かった」と感じている子どもが6年でも84%に達していることは嬉しい結果でした。

【家庭生活を中心とした満足度】

- ・ 概ね家族から、褒めてもらったり叱ってもらったりして多くの声をかけてもらい、規則正し

い生活をしていることがわかります。「家族を好きだ」という設問には、各学年とも100%近い達成度があり嬉しい結果でした。

【自尊感情】

- ・ 「自分が好きだ」と感じている子どもは、「よくあてはまる」「少しあてはまる」を合わせて、ほぼ80%に達していた一方、高学年になるにつれて「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」と答えた子どもも10%を超えることは留意すべき点です。

【帰属意識】

- ・ 「学校が好きだ」と感じている子どもは、「よくあてはまる」「少しあてはまる」を合わせて、4年までで90%以上、5年6年でも86%以上に達していて概ね良い結果でした。しかし各学年に1～2名学校が好きではないと感じている少数の子どもが存在することは、今後の課題であります。今後の集団作りを通してこれを0にしていかなければなりません。

② 夏季職員研修会での検討

まず各学年に分かれて、アンケート結果をもとに課題を明らかにして今後の改善策を検討しました。また各々の設問への回答を6学年並べて一覧にしてみたとき、低学年では満足度が高くても高学年になるにつれて低下していつている設問があり、その設問について低学年・中学年・高学年に分かれて対策を検討しました。その設問は次の三問であり、さまざまな意見が出ました。

「英語の授業はわかりやすく楽しい」

- ・ 昨年のネイティブ講師による授業と比べれば好転してきている。
- ・ 英語が全くわからない子どもにも日本語による手助けが支援となっている。
- ・ ワークブックを導入してみても良いのではないか。

* 次年度からワークブックを導入することについて英語科より提案があり、実施することになりました。

「授業でわからないことについて、先生に質問できる」

- ・ 気軽に聞ける雰囲気づくりをしていく必要がある。
- ・ 低学年では自分が理解できているかどうか把握できていない場合もあるので、ノートやプリントをこまめにチェックして個別指導していく必要がある。
- ・ 「理解したい」という意欲が高まる指導を心がける。
- ・ 子どもの実態に合わせた授業づくりを心がける。
- ・ 1対1の関係を大切に作っていききたい。
- ・ 高学年では友達と教えあうことも大切にしているため当然の部分もあるのではないか。

「家族の人に自分の思っていることを話せる」

- ・ 親に怒られることや否定されることが多くなると、話しにくいのではないか。もっと良いこともたくさん伝えていくことが大切ではないか。
- ・ 忙しい親を支援していくことが大切ではないか。
- ・ 高学年になると親と顔を合わせる時間が短いことも原因ではないか。

③ 子どもたちを対象とした「学校生活や家庭生活の満足度アンケート」の集計結果の配付と、「保護者による学校評価アンケート」実施

保護者のみなさまが、今年度の学校の取組の達成度についてどのように考えておられるかを問うために実施しました。同時に取組についての意見聴取のため、自由に意見を書いていただく欄も設

けました。これを集計し、各学年の後期の改善に向けた具体策を示したプリントとともに配付しました。保護者によるアンケートの結果、「わが子は友達を大切に子どもに育てている」「わが子はまわりの人のために自分の力を喜んで発揮する子どもに育てている」「学校ではカトリック精神に基いた人間教育が十分行われている」といった設問で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との答えが90%を超えており、宗教教育の実践においては高い評価をいただきました。また「わが子は学校が楽しいと言っているのを楽しみにしている」「わが子を入学させて満足している」の設問でも「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との答えが96%で、概ね満足していただいていると評価できます。

一方、「わが子は進んで学習する子どもに育てている」「授業ではひとりひとり子どもに応じた指導が行われている」の学習に関する設問では「そう思う」と答えた方が30%に満たず、課題であることが明らかです。また、「保護者へ学習状況等についての説明は十分になされており相談を気軽にできる」「学校と保護者との連携は密に行われている」の設問でも「そう思う」は30%程度であり課題であることがわかりました。

また、記述でいただいた意見については、多数の意見があった項目についてお答えしました。

④ 児童対象第2回「学校生活および家庭生活の満足度アンケート

全校の集計を見ますと1回目と比較して以下のような傾向がみられました。

【友達関係を中心とした満足度】

- ・ 「仲の良い友達がいる」という設問には、どの学年とも向上が見られ、「まったくあてはまらない」と答えた子どもが全校にひとりもいなかったことはとても嬉しい結果でした。
- ・ クラスづくりが進んでいることが「友達とケンカしてもすぐに仲良くできる」の達成度の向上に繋がっていると思われます。
- ・ 「友達のことで困ったとき、先生にお話できる」という設問と、「友達がケンカやしてはいけないことをしていたときに注意できる」という設問では、1回目と同様、高学年になるほどできると答えた子どもが少なくなる傾向でした。規範意識を高めていくこととならび、今後の課題です。一方「友達にいやなことはいやと言える」の設問では6年を除いて、改善が見られました。また「友達にいじめられたと感じることがよくある」の設問では全学年で改善が見られました。

【学習を中心とした満足度】

- ・ どの教科も概ね満足度が向上しています。ただ引き続き高学年の英語の授業での満足度を高めることは課題です。
- ・ 「漢字ノートやプリントなど提出物のあやまりを最後まで指導してくれる」の設問では概ね向上が見られ、改善策の成果であると考えられます。
- ・ 「授業で自分の考えを発表する機会がある」と感じる子どもが1年から5年では増えました。
- ・ 「授業でわからないことについて先生に質問できる」という設問は、低学年で改善が見られたものの、高学年では課題が残りました。

【カトリックの宗教的価値観の浸透度】

- ・ 「神様がいつもともにいてくださると感じている」という設問には、低学年では「よくあてはまる」「すこしあてはまる」と答えた子どもが98%に達し高学年でも70%を超えたことは、1回目と続き嬉しい結果でした。
- ・ 担任による宗教の授業について「わかりやすく楽しい」という設問に概ねすべての学年で改善が見られました。

- ・ただ「祈りの集いやミサに参加することが自分のためになっている」という設問に対して、5年6年になると意識が落ち込むことは、1回目と同様の傾向で、高学年において低学年で培ってきた宗教心をどのように発展させるかが、今後の課題といえます。それでも「聖母で宗教を学んで良かった」と感じている子どもは高学年でも80%に達していることは大きな励みです。

【家庭生活を中心とした満足度】

- ・1回目を受け各家庭でも意識して取り組んでいただいた成果だと思われませんが「朝ごはんをいつも食べている」「家族みんなと一緒に何かをすることがある」はどの学年でも改善が見られました。
- ・「家族の人に自分の思っていることを話せる」の設問でも概ね改善が見られ、家庭の協力が伺えます。
- ・しっかりと褒めたり、叱ったりしてもらっている姿が伺え、「家族が好きだ」と答えた子どもも増えているのは嬉しいことです。

【自尊感情】

- ・「自分が好きだ」と感じている子どもは、「よくあてはまる」「少しあてはまる」を合わせると全学年で増えたことは嬉しいことです。ただ「まったくあてはまらない」と答えた子どもが僅かですがいることには、留意しなければなりません。

【帰属意識】

- ・「学校が好きだ」と感じている子どもは、「よくあてはまる」「少しあてはまる」を合わせて、4年までで95%以上、5年6年でも84%以上に達していて概ね1回目より良い結果でした。しかし高学年に1～2名学校が好きではないと感じている少数の子どもが存在します。引き続き今後の集団作りにおいて留意していかねばなりません。

⑥「学校関係者評価」の実施

各学年、評議員会に分かれて、今年度の学校評価のあり方やその改善策について次の三つの観点から評価を行っていただきました。

- ① ここまで公表してきた学校評価の内容は適切であったか。
- ② その結果に対して取り組んだ改善策は適切であったか。
- ③ 今年度の学校運営の改善に向けた取組は適切であったか。

以下に評価でいただいた意見を記します。

ここまで公表してきた学校評価の内容は適切であったか

- ・質問の項目は適切だった。
- ・低学年では直前の気分や説明のニュアンス、また実施する教師によっても結果が左右されると思われるので、結果をあくまでも目安と考えてほしい。
- ・改善に向けてどのように取り組んでいただいたのか、具体的に示してほしい。
- ・配付されたアンケート集計を1回目と2回目 dengan どう改善されたのかがわかるようなわかりやすい資料にしていきたい。
- ・学校の取組に対する質問項目（たとえばお弁当配食など）を増やしてほしい。
- ・質問により学習・家庭・人間関係にグループ分けして集計したほうがわかりやすいと思う。
- ・友人関係に関しては各学年に応じた聞き方に配慮してほしい。

その結果に対して取り組んだ改善策は適切であったか

- ・ 数値が上がっているものについては改善が適切であったと思うが、下がっているものについては今後の課題として取り組んでいただきたい。
- ・ 英語についてはぜひともみんなが楽しく授業に参加し、高学年の英語に結びつくような授業をしてほしい。
- ・ アンケートのみでなく十分に子どもの意見を聞いてほしい。
- ・ 全校の児童アンケートで「友だちのことで困ったとき、先生に相談できる」の評価が低いのは気になる。担任に相談しやすい状況はもちろん大切だが、できない場合には、どの先生にでも相談できる雰囲気をつくってほしい。
- ・ 全校の保護者アンケートで「保護者へ学習状況等についての説明は十分になされており相談を気軽にできる」「学校と保護者との連携は密に行われている」の評価が低いことにたいして、ぜひ改善をはかっていただきたい。
- ・ できれば保護者が学年全体で話し合ったうえで、その意見をふまえて学校関係者評価に臨めるように改善してほしい。
- ・ 数字だけで判断するのは危険である。

今年度の学校運営の改善に向けた取組は適切であったか

- ・ 学校のきまりの統一をお願いしたい。またきまりが変更になるときにもぜひ知らせていただきたい。
- ・ 「おにぎり弁当」のきまりについて混乱があるので見解を示してほしい。
- ・ アンケート結果や学年での改善策を、保護者にも十分知らせてもらえると、子どもとの会話のきっかけになる。ぜひ学校評価が親・子ども・先生のコミュニケーションのきっかけになることを願っている。
- ・ 男子制服の五分丈ズボンの導入について知らせていただきたい。
- ・ 男子も内部に中学進学ができるように検討いただきたい。
- ・ 全校の児童アンケートで「神様がいつもともにいてくださると感じている」「この学校でお祈りや聖歌や神様のことを教えてもらってよかったと思う」が高い評価なのに比べ、全校の保護者アンケートで「保護者として宗教教育に関心を持って子どもに関わっている」が低い評価であるのは、保護者としても大きな課題である。
- ・ 今後も聖母としての伝統を大切にしてほしい。

4 今年度の学校評価から明らかとなった課題

本校にとってはじめての学校評価への取組でしたが、第2回目の児童対象のアンケートにおいて項目によって満足度が向上したことは、子どもたちにとって「心から楽しいと言える学校」に一步近づいたと言えるのではないのでしょうか。それは小さな一歩ではありますが、本校の教師集団が「子どもの視点」にたって自分たちの教育活動を評価し、改善に向けて取り組んだ成果として、大きな自信と喜びに繋がったと感じます。あくまでも子どもが楽しいと満足できる学校を目指すという本校の学校評価の方向性は、今後も大切にしていきたいと考えます。

今年度、明らかとなった課題としては次のようなものがあげられます。

- ① 宗教教育において、低学年で培った力や意識を、高学年にむけてどのように伸ばし発展させ、実践的なものと育てていくか。

- ② 学習指導において、どのようにしてより楽しい授業を実践して、進んで学習する子どもを育てていくか。
- ③ 子どもが友達関係のことや勉強のことで困ったときに、どの子どもも信頼して相談できる教師であるために、どのように関係を築いていくか。
- ④ 高学年になるにつれて、悪いことをしていても注意しない子どもが増えていく現状に対して、どのようにして規範意識を育てていくか。
- ⑤ 保護者との協力や連携をどのように深めていくか。

いずれの項目についても、低学年からの積み上げをどのように高学年に発展させていくのかが問われています。これは、どのようにして支えあい高めあえる学習集団を育てるのかということが、本校の課題であることを示しています。当然、高学年になるにつれて受験を意識した時間が増えていき、個人的な関心は多様化していくわけですが、だからこそ、学校生活で築く学習集団の中で、友達や下級生、社会で出会うまわりの人々を尊重できる力を一層育て、発揮させなければなりません。そのことが、規範意識も高めるはずです。そのためには、まず担任を中心としてわれわれ教師ひとりひとりが、しっかりと子どもと向き合い時間をかけて関わりあうことが出発点です。日々子どもがどんなことを喜びとし、悩みとしているかをしっかりと受けとめることから、保護者との強い信頼関係も生まれるはずです。子どもたちの満足度が、1年より2年、2年より3年と学年が上がるにつれて高まっていくとき、保護者の満足度も合わせて高まるはずだと考えます。

以上のことを次年度の課題として、取組に活かしてまいります。

2008年度1回目 全児童集計

2008年度2回目 全児童集計

番号	児童用質問内容 (例:低学年)
1	仲の良い友だちがいる。
2	クラスの人と、仲良くできている。
3	友だちとケンカしても、すぐに仲直りできる。
4	友だちのことで、困ったとき、先生にお話できる。
5	友だちがケンカや、してはいけないことをしていたときに、注意できる。
6	友だちを自分からさそって遊べる。
7	友だちに、イヤなことは、イヤと言える。
8	友だちから、いじめられたと感じることがよくある。
9	遠足はたのしい。
10	国語の授業はわかりやすく楽しい。
11	算数の授業はわかりやすく楽しい。
12	生活(社会・理科)の授業はわかりやすく楽しい。
13	体育の授業は体をいっぱい動かして楽しい。
14	図工の授業はわかりやすく楽しい。
15	音楽の授業はわかりやすく楽しい。
16	英語の授業はわかりやすく楽しい。
17	ノートやプリントなど提出物のあやまりを最後まで、指導してくれる。
18	漢字ノートや日記などはていねいな指導してくれる。
19	教室外で、植物を育てたり観察したりする機会がよくある。
20	授業で自分の考えを発表する機会がある。
21	授業でわからないことについて、先生に質問できる。
22	先生は、学習で自分が努力したことをみとめてくれる。
23	教室・特別教室・運動場などは、学習がしやすくなっている。
24	ビデオなどの視聴覚機器やコンピュータなどを使った授業がある。
25	神様が、いつも ともに いてくださると感じている。
26	お祈りのとき良い姿勢で心をこめてしている。
27	朝の祈りの集いやロザリオの祈りには進んで参加している。
28	宗教の授業は、わかりやすく楽しい。
29	祈りの集いやミサに参加することが、自分のためになっている。
30	聖母月などの実践目標に進んで取り組もうとしている。
31	好きな御言葉がある。
32	宗教の授業で学んだことを生活の中で実践しようとしている。
33	この学校でお祈りや聖歌や神様のことを教えてもらってよかったと思う。
34	「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」「いってきます」など、自分から家族に言っている。
35	朝ごはんをいつも食べている。
36	家族みんなで一緒に何かをすることがある。
37	家族の人に自分の思っていることを話せる。
38	家族の人と一緒にいることは楽しい。
39	次の日の学校の準備は一人でできている。
40	おうちの人は、自分がいいことをしたらほめてくれる。
41	おうちの人は、自分が悪いことをしたらしかってくれる。
42	家族のことが好きだ。
43	自分のことが好きだ。
44	学校が好きだ。

